

趣意書

現在、血液透析療法は、延命目的から社会復帰を目指す治療法として発展しています。透析患者の社会復帰は当然のことであり、さらなる Quality of life の向上を目指し、血液透析療法が行われているとさえ言えます。

このため、透析器は大孔径化、高性能化される傾向があり、また、透析効率を向上させるため、様々な治療モードが考案され、透析液を直接置換液として用いる On-line HDF や I-HDF が臨床で行われています。

このような透析療法を選択した場合、透析液の水質管理を厳重に行い、清浄化された透析液を供給する必要があります。また、透析液も使用する透析液の種類により水処理装置から検討しなければなりませんし、さらには透析周辺機器も新しい技術が導入され、体重計、血圧計も含めたコンピューターのオンライン化も検討されています。

このように透析技術の発展はめざましいものがあり、透析患者様に、より良い透析生活を送ってもらうため、各施設においては優れた技術の導入を検討する必要があります。

当会はこれら多くの情報を集め、客観的な判断、検討するべく発足し、様々なテーマを今後も検討してまいります。

本年は演題を「人工腎臓の診療報酬改定のポイントと今後の展望」とし、人工腎臓に関わる各メーカー7社より、最新の情報を教えて頂きます。

質疑応答の時間も設けます。皆さんと情報を共有し、有意義な会にしたいと存じます。

開催日：2018年10月21日（日）

会場：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北8条西5丁目）

北海道透析技術談話会

代表世話人	大澤 貞利
世話人	土濃塚 広樹
世話人	植村 進
世話人	石川 幸広
世話人	佐々木 雅敏

共催：北海道透析技術談話会

公益社団法人 北海道臨床工学技士会

中外製薬株式会社

扶桑薬品工業株式会社

後援：公益社団法人 日本臨床工学技士会

第 19 回北海道透析技術談話会

—人工腎臓の診療報酬改定のポイントと今後の展望—

2018 年 10 月 21 日 (日)

会場：北海道大学学術交流会館 (札幌市北区北 8 条西 5 丁目)

参加費：1,000 円

9:55-10:00 開会の辞

10:00-10:20

『透析時間・長時間透析・在宅透析』 JMS 株式会社

10:20-10:40

『人工腎臓の施設基準・透析液水質確保加算』 日機装株式会社

10:40-11:00

『慢性維持透析濾過 (複雑なものに限る)・その他の場合』
東レ・メディカル株式会社

11:00-11:20

『ダイアライザ・ヘモダイアフィルタ』 ニプロ装株式会社

11:20-11:40

『血漿交換療法関連』 旭化成メディカル装株式会社

12:00-12:45 「ランチョンセミナー」 扶桑薬品工業株式会社

『診療報酬と治療モード』

演者：医療法人仁友会 北彩都病院診療技術部 臨床工学課 中谷隆浩 先生

座長：釧路泌尿器科クリニック 副院長 大澤貞利 先生

13:00-13:10 総会

13:10-13:30

『下肢末梢動脈疾患管理加算』 株式会社カネカメディックス

13:40-14:00

『腹膜透析関連』 バクスター株式会社

14:00-14:20 総合討論

14:20 閉会の辞

※本会への参加は事前に申請が終了しておりましたので、「血液浄化専門臨床工学技士」および「透析技術認定士」の認定制度単位8 ポイントが付与されます。

共催：北海道透析技術談話会

公益社団法人北海道臨床工学技士会

中外製薬株式会社

扶桑薬品工業株式会社